



Newsletter

第23回「ドナーファミリーの集い®」

Donor Family Day

2020.10.10 SAT
～11.15 SUN



ご挨拶



東京歯科大学市川総合病院
角膜センター・アイバンク
センター長 島崎 潤

今年もドナーファミリーの集い®が開催されました。この集いは、アイバンクや献眼、角膜移植についての正しい理解を広めるとともに、アイバンク活動に関わるドナーファミリー、患者様、アイバンク関係者、眼科医、そしてサポートの方々が集うことを目的として始まり、今回で第23回となりました。今回の特徴は、何といっても新型コロナの影響で初めてのオンライン開催となったことです。例年と異なる準備や配信で不慣れなところが多くありました、なんとか多くの方々に無事にお届けすることができてホッとしております。「一堂に会する」という形式を取ることはできませんでしたが、いつも遠くにお住まいで参加できない皆さまや時間が合わない方々と、時間的空間的制限のない状態で会の精神を共有することができたのではないかと思います。



プログラムは大きく5つのセッションに分かれています。**角膜移植を受けた患者さん（レシピエント）**からの声は、ビデオレターの形で発表されています。患者さんがそれぞれお受けになった手術とドナーに対する思いを肉声でお話されています。普段診察室で伺う表情とは少し違う様子を見することは、私たち医療者としても新鮮で貴重な経験となっています。

今回のプログラムのメインの一つは、**ドナーファミリー**のお話しを伺うセッションにおいて、慶應義塾大学眼科の坪田教授がお二人の弟さんとともに出演されたことです。坪田先生は、2019年にお母様がお亡くなりになられた際に、ご自身の意思に従って献眼をされてドナ

ーファミリーになりました。ふだんの角膜移植の執刀医からドナーファミリーになるということは、非常に大きな立場の変化があったと思います。ご兄弟皆さんが、生前のお母様との思い出やエピソードを語り合っておられるのを聞くことができる貴重なものとなりました。

もう一つのインタビューは、**眼科医による角膜移植とアイバンクへの思いを語るプログラム**です。東京歯科大学市川総合病院眼科には、全国より角膜移植を学びに来る「角膜フェロー」が在籍しています。その多くは2年程度在籍して、前眼部疾患の診断や角膜移植の技術を習得します。それと同時に献眼の場面に立ち会うことによって、アイバンクに対しても知識を深めていきます。今回は、福井大学より来られた松村健大先生、熊本大学の草野雄貴先生、そして慶應大学の平山雅敏先生がお話しをしてくださいました。ここで学んだことを、それぞれの施設に戻った後でどう生かしていくかを真剣に考えていることが伝わってきます。

いつも会の最後には、児童劇団『大きな夢』による「ぼくのこころもありがとう」の合唱がありますが、今年は趣向を変えて多くのメンバーが一部ずつを歌っていく**「歌のバトンリレー」**の形式が取られました。例年より歌のクオリティーは落ちますが、あるものは楽しそうに、そしてあるものは恥ずかしそうに参加しており、例年とは違った楽しさが味わえます。また、会を支えてくださる医療関係者や企業の**「サポーター」**の皆さんも多くの動画で参加してくださるページも設けてあります、それぞれ手間を掛けた内容を楽しむことができます。

来年の本会は今のところ、通常の形での開催を予定していますが、今回のオンライン配信の良いところも取り入れるような形式を考えていきたいと考えております。最後に配信に努力してくれた角膜センター・アイバンクのスタッフと制作会社の皆さんに心より感謝の意を表します。

Web 開催について

今年は「ドナーファミリーの集い」を、これまでの集会の形ではなく、23年間で初となるWeb開催と致しました。プログラムを上のような4色のカテゴリー（D・R・M・S）に分け、それぞれの入り口からIDとパスワードで中に入っていただき、どなたでも閲覧いただけるように致しました。その4つの立場（ドナーファミリー・レシピエント・メディカル・サポーター）をつなぐ真中には「歌のバトンリレー」のコーナーがあり、まさに、アイバンクの光のリレーと移植医療の「絆～きずな～」とを表しました。5週間に渡りました開催期間中、約1000アクセスの閲覧を頂きました。セキュリティ強化のため、IDとPWを入力していただくのにもかかわらず、沢山の方々に閲覧いただけたことに、改めて御礼申し上げます。

Webサイト内のプログラム

D ドナーファミリー	R レシピエント
ドナーファミリーからのビデオレター 慶應義塾大学眼科 坪田一男 教授 およびご家族	角膜移植患者様からの ビデオレター
M メディカル	S サポーター
東京歯科大学市川総合病院 眼科医 インタビュー動画 移植医からのメッセージ ～アイバンクのこれからを考える～	協賛企業紹介動画 劇団「大きな夢」ご紹介
お便り	歌のバトンリレー 皆様から寄せられた歌のリレーを 一つに繋ぎます♪ 曲：「ぼくの心もありがとう」



坪田健嗣様



坪田一男様



坪田邦男様

ドナーファミリーからのビデオレター

2019年にお母さまよりご献眼いただいたご兄弟のインタビューを紹介致しました。

兄弟そろって医療従事者というお立場ですが、今回は、ドナーファミリーとしてのお気持ちをお話くださいました。

ーお母様のお話し・思い出・エピソード

母の思い出を一言では表せないので、本当に明るく、今自分達がこうして明るい人生を送っているのは母の遺伝子と母の立ち振る舞いといつも笑顔で愛してくれたからだと思います。

毎日水泳も行っていましたし、活動的で非常に楽しい母の子供で良かったなといつも思います。

ーお別れの時

母が危篤になったとき、兄弟交替で、一泊ずつ病院で母に付き添って過ごしたんですね。そして母といろんなことを（心の中で）話しました。そんな中、亡くなる直前になっても、すぐにアイバンクのことを思い出せなかつたのです。少し落ち着いてきた時に、「私は献眼するわ。」と言っていたのを思い出して、すぐにアイバンクへ連絡しました。すると、そのタイミングで亡くなつたんですね。まさに「それまで私は死ねない」といった感じでした。

ー角膜提供を決断した時の状況・家族皆様の反応・ご様子

うちのファミリーは、これまでドナーファミリーの集いに参加したり、アイバンクミュージカル（坪田一男先生原作）を何回も観ています。義理の父は献眼しましたが、実父はしませんでした。そう言う点でそれぞれの意思が尊重されている家族だと思います。母は生前より「献眼する」と言っていたし、もちろん、誰も反対もせず、母の意思を尊重しました。

こちらの小冊子（ご両親の軌跡をお写真と共にまとめたもの）は、2007年に父が亡くなったときに作ったのですが、ミュージカルのタイトルと同じく、「パパからもらった宝もの」というタイトルをつけました。

どこに行ってもお土産を買って帰ってくるのが好きだった母ですし、まさに献眼は「最期の贈り物」だったと思っています。



ー提供後の心境

「献眼」は、母がしたかったことなのでいいんじゃないかと思うんですよ。あとから思ったんですけど人の役に立つのはいいな、と思いました。火葬場に行ったとき、骨だけになったのを見て、「全部なくなっちゃうんだ」と実感します。

今までドナーになろうとか意識がなかったのですが、僕の臓器が人の役にたてるならあげてもいいや、逆にあげたいくらいに意識が変わりました。貢献したばあば（母）を、今は、誇らしく思っています。

ー移植患者様のご報告を受けての気持ち

献眼後、移植の報告も受け、「無事終わりました」と言わせて、ほっとしたのを覚えています。

母の意思をいかせたということに安心しました。

目が見えない方が見えるようになるって素晴らしいことだと思うので、貢献できて良かったです。

ばあば（母）は好奇心が旺盛だったので、自分の角膜が他の人の役に立ち、その人を通していろんなものを見れているんだろうな、と感じています。

ー角膜提供を通して伝えたいこと

眼科医であり、アイバンクに携わっているながら、アイバンクのことをすぐには思い出せませんでした。

だからちゃんとしたシステムが出来ていない限り、普通、ご家族は意思があっても実際に献眼に繋がりにくいと思いました。亡くなったときのたつた一回、角膜を提供するチャンスをお伝えするのは本当に大切だと思いました。

ーこれからアイバンクに必要なこと

先程お話しした通り、システムとしてのアイバンクは重要なと思っています。遺族はバタバタしていて余裕がないので、そんな状況でもアイバンクが機能していればきちんと、意思を伝えることができるだろうな。

そこを是非組み上げていけるようなアイバンクになって欲しいです。

ーお母様へのメッセージ

お陰様で兄弟仲良くやっています。僕も孫5人になりました。ママの10人にいくまではまだまだですが元気にやっています。どうぞ坪田ファミリーを天国から応援していくください。（坪田一男様）

ママの角膜が他の方の目になっていろいろなものを天国からそれを通して見ているのかなと思います。

みんな仲良く出来ているのはママの愛情が深かったんだと思います。ぜひ、天国で元気に長生きしてください。（坪田健嗣様）

ハイ！ばあば！僕もおじいちゃんになりました。ひ孫がどんどん増え、7人になつたよ。

見れないのかもしれないけど、感じるようにしておいてください。

I LOVE ばあば♡ いつまでも見守っていてください。（坪田邦男様）

ドナーファミリーの声

サイト内のこちらのコーナーには、この1年のうちに寄せいただきましたドナーファミリーの方々からのお手紙の一部をご紹介致しました。それぞれのお手紙をクリックすると、音声でもお楽しみ頂けるようにしました。当バンクのスタッフが心を込めて、お手紙を朗読させて頂きました。

神奈川県 ご提供者様の奥様より

夫の両眼の角膜を提供させていただき早や五年が経ちました。
提供させていただいた「神奈川県」の方「長野県」の方お二人共お元
気でしょうか？　夫の角膜は無事にお役に立てているでしょうか？
その折幸いな事に、最期を迎えた夫の為にいち早くコーディネーター
さんがかけつけ、対応して下さったおかげで、角膜を残してあげられ本
当によかった！
五年経った今も夫がどこかで見守ってくれるとの思いは、生涯消える
事のない大きな励みだと思っています。私も生涯を終えた折には夫と
同じ様に角膜提供をしたい！そして私が味わっている思いを娘達にも
是非味わってもらいたい！！
ドナーファミリーになれて本当に感謝しております。

夫がどこかで見守ってくれるとの思いは
生涯消える事のない
大きな励みだと思っています。

神奈川県 ご提供者様の息子様より

母が亡くなつてから
早5年がたちました。

千葉県 ご提供者様の娘様より

お父さん 良かったね。
救急車での病院に運ばれた縁で、素敵な出会いがありました。

アイバンク事業のことは知っていましたが、いざという時にどこに連絡をしたら良いのか、本人の意思を確認する書類が必要なのでは、と思っていました。が、家族の意思で可能と知りました。

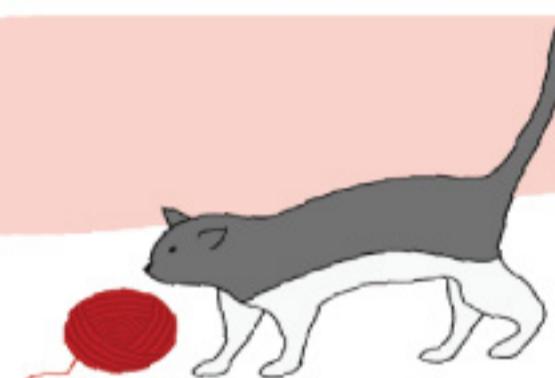
亡くなった直後に、コーディネーターの方に、言葉を選びながら家族に寄り添うような温かい言葉で接していただきました。

何かあった時は社会に恩返しをしたいという想いがあったので、アイバンクに提供する決心をしました。父も喜んで同意していることでしょう。

コーディネーターの方の声かけで、私達のように行動を起こせる方がたくさんいらっしゃると思います。

どうぞ勇気を出して、お話してみてください。

千葉県 ご提供者様の娘様より



お父さん、またこの季節が巡ってきました。
お父さん、年に一度、お父さんに手紙を書く9月…
年に一度、お父さんが、ガンと戦い終わった9月…
お父さんが、夏が少しづつ秋に移っていって少し淋しい9月…

今年は、お父さんとよくケンカしていた伯父ちゃんが亡くなりま
した。そちらでは、仲良くしていますか？伯父ちゃんを亡くしたK
ちゃんが、私に「お父さんを亡くすって、喪失感がすごいね。ふ
と1人になった時や運転中に、自然と涙が出て来て… こんな切
なさをあなたは30代の頃に経験してたんだね。辛かったね。」と
言ってくれました。

辛かったけど…お父さんの目は今もどこかで生きている！誰かの
目にあって同じ時間を共有していると思って、私は乗り越えてい
ます。

千葉県 ご提供者様の娘様より



5年前の1月、冬の寒い日、ヒートショックで突然父は旅立ちました。父は、かつて軍国少年であり、志願して戦争にいきました。特攻隊の生き残りでもあります。

軍国主義を信じて散つていった年下の隊員の事を 何も知らずに可哀想だと、8月15日には、毎年お参りしていました。晩年ボランティアに参加し、自閉症の子ども達や老人ホームでお年寄りとの将棋をしてすごしていました。突然お別れとなり残された家族に献眼のお話があり家族一同迷いませんでした。献眼のスタッフの方々の対応は素晴らしい、私たちに後悔の念を抱かせることはありませんでした。

お二人の方に献眼できたと報告を受けた時、母も私も感動し、父を誇りに思いました。



千葉県 ご提供者様の娘様より



5年の長きに渡りドナーファミリーの心に寄り添って頂き
ありがとうございます
いつも温かい言葉に救われています

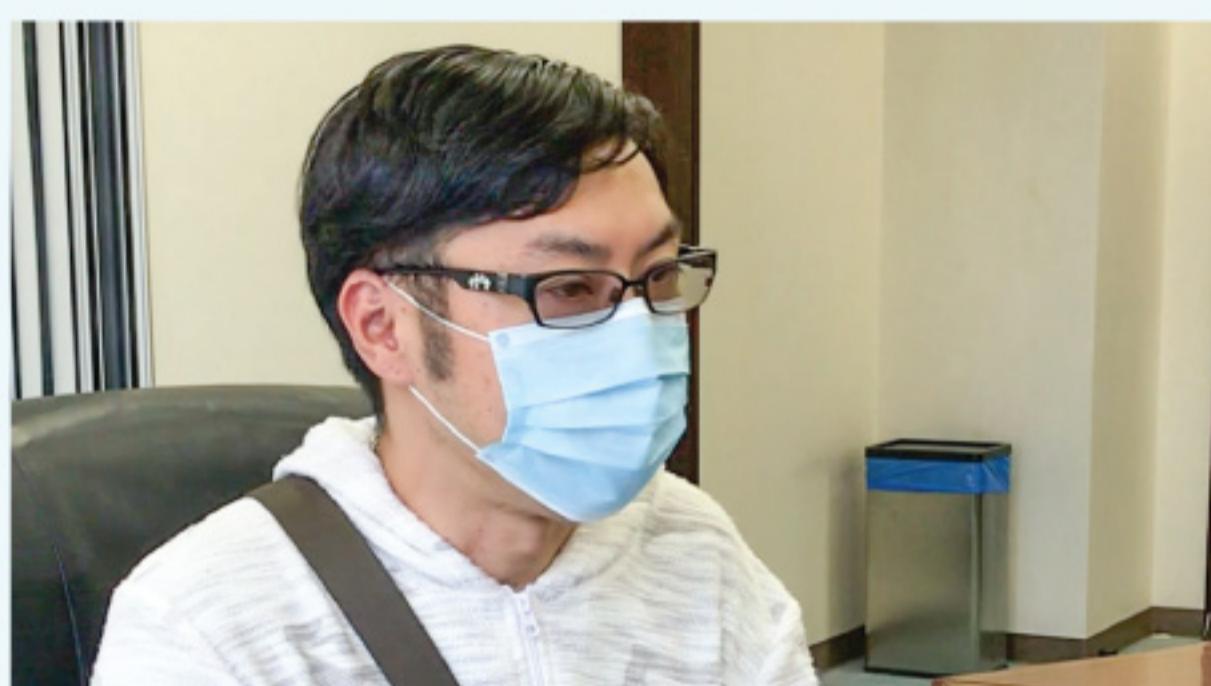
角膜移植医療の発展を想い今後も身近な方に私共の体験をお知らせしていきたいと思っております

今想像を絶する状況にある
医療現場で戦っていただいている皆様とご家族様には、
心からの敬意と
感謝の気持ちでいっぱいです



レシピエントからのメッセージ

市川総合病院で角膜移植をうけられた7名の移植患者さまより、移植後のお気持ちなどをお話し頂きました。



千葉県 30歳代

僕が、社会復帰を果たせて、今の僕があるのは、角膜を提供してくださった方のおかげで、感謝しかありません。僕も、今回、移植という形で、自分の生活などすべてを救ってもらった。なので、逆に今度は体に不自由な部分がある、困っている人のサポートに回りたいなという気持ちが芽生えました。角膜提供してくださった方には、「本当にありがとうございました」と言いたい。大事に、この角膜だけは一生大切にしていきたいと思います。

神奈川県 70歳代

見え方も、順調に進んでいるということで、本当にこの頂いた角膜に、感謝をしています。皆さんもそうだと思いますが、今、自分の眼が見えているから良いんですが、もし、失明となつた時に、果たしてこれから、今のこの年でどうやって人生を過ごそうかな、ということが一番気になる。ですので、移植を受けて、本当に助かったと思っています。助かった分は、どこかで恩返しをしないといけない。大きなことはできないけれど、地元には多少なりとも、できることは恩返ししながら生活しているという状況です。



千葉県 70歳代

提供された方には本当に感謝します。身体はだんだんと弱っていきますので、目が良くなったら、スポーツやジョギングを再開したいと考えています。ありがとうございます。

埼玉県 40歳代

手術前は視界がだんだんと白くなっていき、視力も下がってしまいました。不安がいっぱいな毎日でした。手術が終わり、視界は元に戻りました。目が覚めた時にクリアに視界が見えている事にまず感謝ですね…両目の手術を受けましたので、お二方の角膜が入っているのだな、と毎朝思います。職場の方も復帰ができて感謝・感謝の毎日です。



栃木県 80歳代

私には障がいのある子がいて、一日でもそばにいたいと思っています。目が見えなくなるにつれて、この先あと何年お世話ができるかと心配な毎日でした。移植手術を受けて、視力が戻ってきたことにより、日々の希望も出てきました。提供していただき、私のように困っている人を救ってくれることに胸がいっぱいです。ありがとうございます。

千葉県 70歳代

(ご本人) 主治医から角膜移植の話を聞いてからいろいろと調べました。そのなかで、アイバンクの事を知りました。角膜提供してもいいですよとおっしゃってくださっている方がいることに大変感動し、日本って素晴らしい国だと感じました。ドナーの方には勇気もらいました。今では、高齢になった私にもできる事が沢山あると考えています。皆様のお役にも立てる何かができるいいなと思っています。

(奥様) ありがたい事です。本当に。

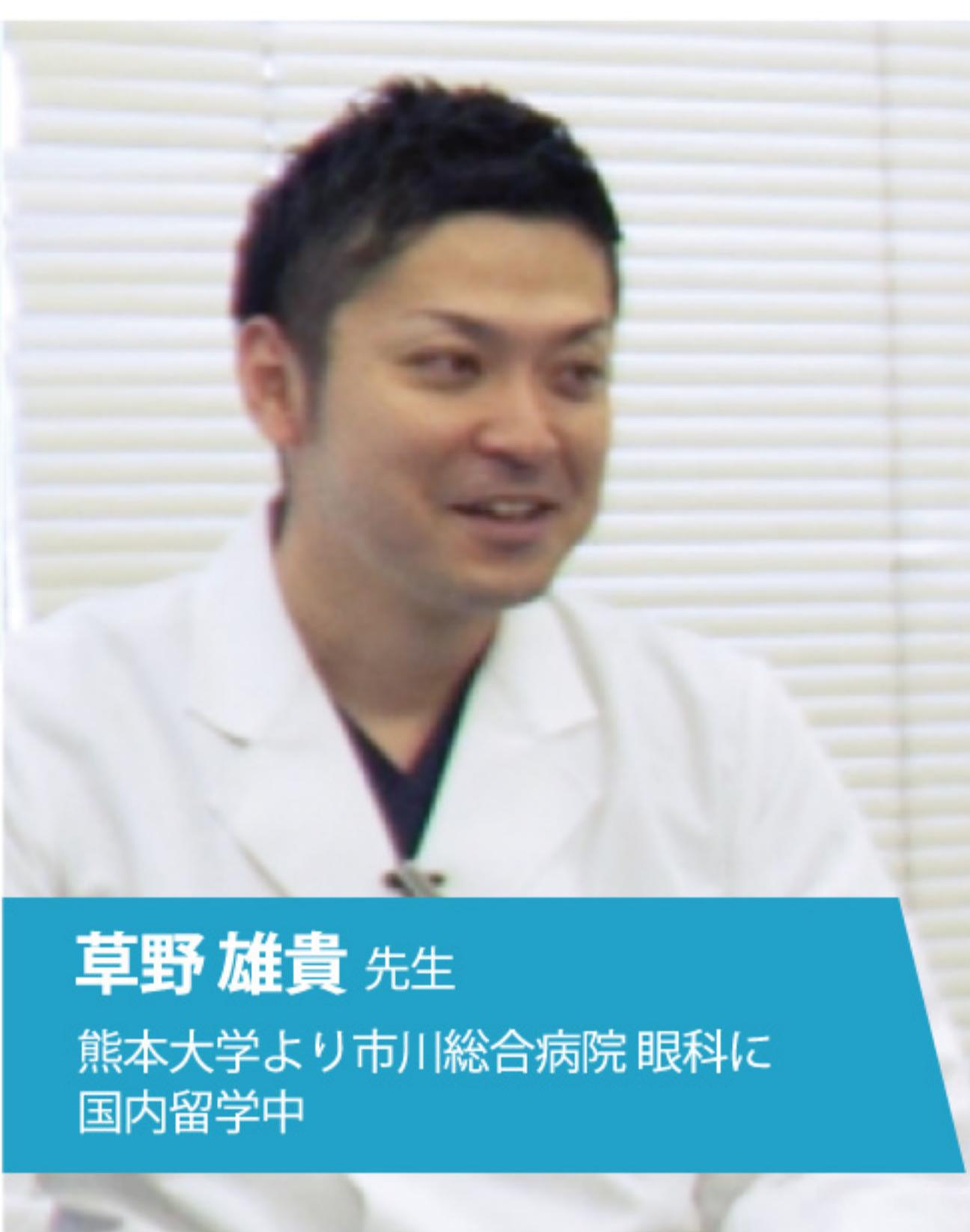


神奈川県 60歳代

移植後、眼を開けていいよと言われたとき、眼を開けたら、よく見えるんです！外がよく見て、病院の外にある畑の畝もはっきり見えるんです！その時は、とても感動しました。ただ、私の病気は、角膜にはあまりよくない病気で、だんだん角膜に穴があいてきて、また眼が見えないということで入院を繰り返していますので、手術をして、また眼がみえるようになるというのは、泣きそうになるくらい嬉しいです。最近は、移植医療に理解のあるご家族の方々が角膜提供をしてくれて、私たち角膜が損傷されてる患者には、本当に感謝に堪えません。

角膜移植に関わる眼科医による座談会

移植医からのメッセージ ~アイバンクのこれからを考える~



草野 雄貴 先生

熊本大学より市川総合病院 眼科に
国内留学中

松村 健大 先生

福井大学より市川総合病院 眼科に
国内留学中

平山 雅敏 先生

慶應義塾大学眼科学教室に入局。
現在市川総合病院 眼科に勤務中

島崎 潤 先生

角膜センター・アイバンクセンター長
東京歯科大学市川総合病院 眼科部長

島崎 潤 先生

現在、日本の角膜診療において地域格差があることは否めません。住む場所により角膜移植を受けるチャンスが多い方がいれば少ない方もいる。当然、角膜移植を得意とする先生に出会える確率も違ってきます。現代の世の中ではこの現状はおかしな事です。本日お話ししてくれた先生方と同じように、ここで角膜を学び地元へ戻った先生方が何十人といいます。そのような先生方は北海道から沖縄まで存在し、現在も角膜を専門としています。我々の市川総合病院だけでは、年間300～400例ほどしか角膜移植は行うことができませんが、地方へ戻った先生方の力があればその何倍でも角膜移植を行うことができます。

また、我々は、角膜に関して最先端でありたいと思っています。今後の発展には角膜スペシャリストの集団の「ネットワーク」がキーワードになると思います。

熊本では、若手の先生が角膜について学ぶ機会がほぼ無い現状でした。それは熊本の角膜医療の将来が危うい事を意味しています。そのような中、市川総合病院で角膜について学ぶ事になりました。赴任後、一番驚いたことは、ルーティン・リファーラル・システムです。亡くなった方の角膜をスムーズに提供できるシステムが整っていることに感銘を受けました。

地元では、移植を受けたくてもなかなか受けることができません。また、医療従事者や医師でさえ角膜移植をあまり知りません。本システムの導入により、角膜の提供数が増え同時に救える患者さんも増える事を理解してもらうことが大切です。また、亡くな



草野 雄貴 先生

なった方が、生前、提供の意思があったにも関わらず、その意思が尊重されないのは非常に残念なことです。地元に戻った時にはそのようなことも減らしていく様に活動していきたいと思っています。

福井県はアイバンク活動が活発な地域です。しかし角膜移植自体はほとんど行われていませんでした。地元で角膜移植を受けられる体制を整える事を目的として、市川総合病院で勉強をしています。近年は、パーツ移植（角膜の中で機能を失った部分のみを交換する手術方法）が主流です。市川総合病院で沢山行われている手術技術を習得し、やがては地元に貢献したいと考えています。

今後、角膜移植がより発展していくためには、角膜の提供ができるることをより多くの人に知ってもらうことが大切だと思います。また、角膜移植は一人では診療できません。地元でも角膜チームを作つて角膜診療を盛り上げていきたいと思っています。



松村 健大 先生

Medical

慶應義塾大学に眼科医として入局後、アメリカ留学し基礎研究を行ってきました。そこで得た研究知識を医療現場に活かすべく、現在、市川総合病院に勤務しています。ドナーファミリーの集い[®]には毎年参加してきました。もしドナーファミリーが、献眼の決断は正しかったのか?と悩むとしたら、周囲に相談できる相手がないと1人で抱えてしまします。本会は、同じような考え方や気持ちを持つ人がいる事、自分の決断と行動が移植を待っている患者さんにつながっている事、を確認できる場所だと思っています。つまり、決断されたご家族にとって、心の拠り所になると思います。

移植は、献眼があって成り立っていくものです。日々、その感謝を忘れないことが大切です。移植医は自分の技術を磨き、修練していく必要があります。こういったことを1つ1つ大事にしていくことで、今後、より角膜移植の輪が広がっていくと考えています。



平山 雅敏 先生

歌のバトンリレー ~離れていても心はひとつ~

角膜移植を取り巻く人々が、ドナーファミリーによる作詞曲を歌い上げた動画(一部静止画)を集め、つなぎ合わせて1本の動画にまとめました。D・R・S・Mの4つの立場から30を超えるグループが参加されました。



“ぼくの心もありがとう”

1. 愛する人を失った
生きる希望を失った
手からこぼれる幸せが
みんなの声も聞こえない
愛する人はどうだろう
そう思ったら声がした

明日の夢を失った
ぼくの心が壊れたよ
涙になって頬つたう
ぼくの心が壊れたよ
きっと望みがあるだろう
ぼくの心が感じたよ

2. 光のバトン繋いでね
そう思ったらわかったよ
再び感じる陽の光
感謝の気持ち伝えたい
見える喜びありがとう
尊い命ありがとう

作詞 / 名倉 真悟 作曲・編曲 / 中村 理恵
待ってる人がきっといる
ぼくの心が感じたよ
見知らぬあなたに届けたい
ぼくの心もありがとう
光のリレーありがとう
ぼくの心もありがとう



参加者リスト(歌唱順)

歌唱順	区分	企業・団体名 / お名前など
1	M	東京歯科大学市川総合病院 移植支援室 / 院内コーディネーターの皆様
2	M	東京歯科大学市川総合病院 眼科医 / 松村 健大先生・高橋 紗先生
3	M	東京歯科大学市川総合病院 4 東病棟 / 看護師の皆様
4	M	慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター / 許斐 健二先生
5	S	児童劇団「大きな夢」 / グループ①
6	M	視覚健康財団・アイバンク / 松本 由夏コーディネーター
7	R	角膜移植患者の会 / 小西 尚子会長
8	M	東京歯科大学市川総合病院 眼科医 / 島崎 潤先生・福井 正樹先生・鈴木 孝典先生
9	M	東京歯科大学市川総合病院 4 東病棟 / 看護師の皆様
10	M	慶應義塾大学病院眼球銀行 / 柳 ゆかりコーディネーター・三吉 真子コーディネーター
11	D	ドナーファミリー / 坪田 一男様・坪田 健嗣様・坪田 邦男様
12	M	慶應義塾大学病院 眼科医 / 内野 裕一先生・片山 泰一郎先生・平山 オサマ先生
13	S	サポーター / Ren君・Mahoちゃん
14	S	児童劇団「大きな夢」 / グループ②
15	S	日本両棲類研究所 / 篠崎 尚史所長・研究所職員の皆様
16	M	北里大学病院 骨バンク / スタッフの皆様

区分 D: ドナーファミリー R: レシピエント S: サポーター M: メディカル

歌唱順	区分	企業・団体名 / お名前など
17	S	児童劇団「大きな夢」 / グループ③
18	R	レシピエント / 野崎 昭子様
19	M	慶應義塾大学病院 眼科医 / 棚村 重人先生・三田村 浩人先生・片山 泰一郎先生
20	M	熊本県移植医療推進財団 / 西村 真理子様・中野 政幸様・(熊本赤十字病院 社会課) 興梠 美智子様・渡 真由美様
21	S	児童劇団「大きな夢」 / グループ④
22	M	日本スキンバンクネットワーク / コーディネーター
23	D	ドナーファミリー / 佐々木家の皆様
24	M	東京歯科大学市川総合病院 眼科医 / 山口 剛史先生・三村 璃々子先生
25	M	東京歯科大学市川総合病院 眼科医 / 富田 大輔先生・平山 雅敏先生・草野 雄貴先生
26	S	東京麻布ライオンズクラブ / メンバーの皆様
27	S	千寿製薬 / 赤澤 駿様と娘様
28	M	角膜センター研究室 / 比嘉 一成先生・樋口 順子研究員・木本 玲緒奈研究員・五十嵐 安弥子研究員
29	M	兵庫アイバンク / 片上 千加子理事長・渡邊 和善事務局長兼コーディネーター
30	M	角膜センター・アイバンク / 秘書チーム
31	M	角膜センター・アイバンク / 青木 大コーディネーター・佐々木 千秋コーディネーター・西迫 宗大コーディネーター

参加コーナー

今年のドナーファミリーの集いは、Web上から皆様にもご参加いただけるコーナーを掲載いたしました。

クイズコーナーやQ&Aコーナーでは、献眼や角膜移植に関する簡単な問題を選択して、より多くの方々に角膜移植についてご理解頂けたらと思い企画いたしました。

クイズコーナー

Q 献眼登録をしなくても
献眼は可能?

正解は
こちら



Q 老眼でも献眼できる?



Q 角膜センター・アイバンクでは
Webからも献眼登録ができる?



感想コーナー

本サイトをご覧になった感想の一部をご紹介します。

皆様の貴重なご意見等を励みとし、アイバンク活動により一層活かしていきたいと思います。

皆様、お元気ですか。毎年、参加させていただきありがとうございます。

坪田先生のご家族の心温まるお話を聞かせていただき素敵だなと思いました。

主人も、早いもので、10年たちますが、献眼のおかげでみんな元気に過ごさせていただいております。娘も、毎年、「声」を書くのを楽しみにしています。また、ナレーターの方も素敵に読んでいただき、涙ぐんでしました。まだまだ、献眼の数が少ないと残念に思います。もっともっと、周知されればと思います。

ドナーファミリー 女性

地方在住のため、例年参加できませんが、Web開催と言うことで、閲覧することができました。移植医からのメッセージは、各先生方のバックボーンやお考え、角膜移植のこれからといったお話が聞けて、たいへん興味深く聞かせていただくのと同時に、未来への希望を感じました。東京歯科大学市川総合病院角膜センター・アイバンクの益々のご発展を期待しております。

レシピエント 男性

本当に素晴らしいWeb開催でした。センターの皆様のドナーファミリーの皆様に対するお気持ちがよく伝わってきました。眼科医の座談会では先生方の関係の風通しの良さがとても感じられ、患者である私には安心してお任せできる病院だと本当に思いました。

ドナーファミリーの集いでご家族のお気持ちを知る機会を頂いていますが、毎年毎年考えることが深くなっています。本当にたくさんの方の思いがこの角膜にあるのだと心にいつも留めて生活をしていきたいと思っています。歌のバトンリレー、この歌には涙がいつも出てしまいます。入院中は本当に皆さんには献身的にお世話を頂きましたが、その皆さんのがご参加されている歌のバトンリレーを見ていろいろ思い出されて、感謝でいっぱいです。Web開催、本当によかったです!どうもありがとうございました。

レシピエント 女性

今回、web開催ということで初めてドナーファミリーの集いを拝見させていただきました。眼科医として勤務しておりますが、坪田先生のお話及びドナーやレシピエントの方のご家族の皆様の思い、改めて胸に響くものが強くありました。この集いは、眼科医がもう一度自分の使命を再確認する意味でも大変重要なと思いました。大変素晴らしい企画、webだからこそ知ることができます。ありがとうございました。

眼科医 女性



協賛企業様よりご提供いただきました。

株式会社 わかさ生活 様 ブルーベリーアイ サプリメント

株式会社 ドール 様 ドールスマージ-スマイルレイエロー・リフレッシュグリーン・リラックスレッド

クイズにご応募、ご感想をお寄せ下さった皆様、誠にありがとうございました。

※抽選の結果、35名様が当選いたしました。当選の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。



Q&Aコーナー

Q 献眼は、
何歳までできますか?

A 献眼に際し、年齢制限はありません。
角膜の機能は160~180年保てるとされています。

Q 角膜移植は、誰でも、
どこでも受けられますか?

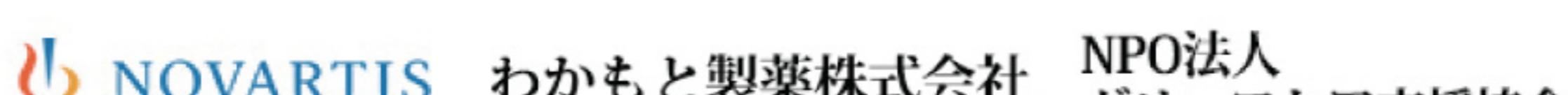
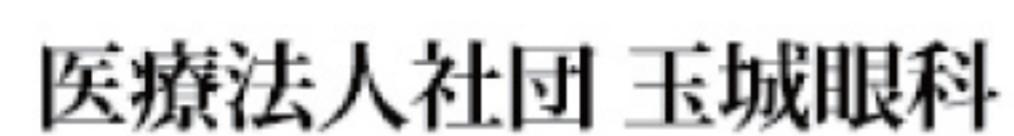
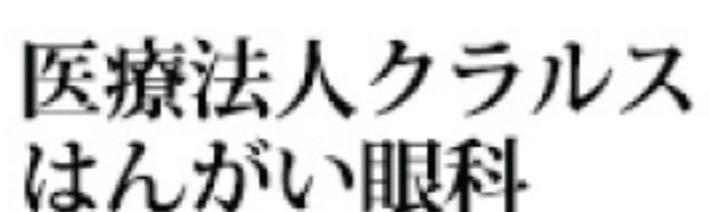
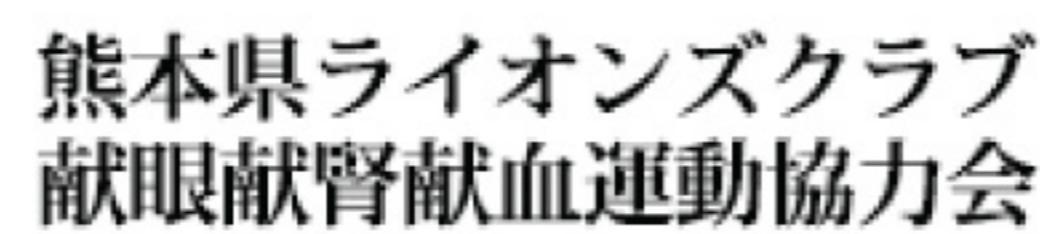
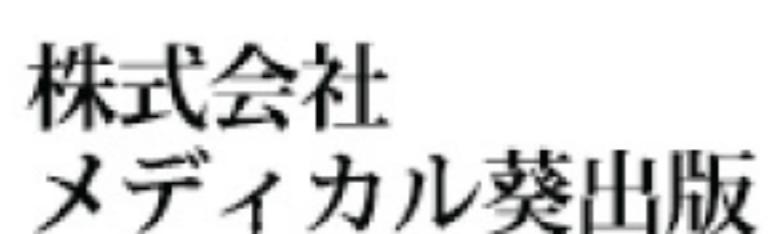
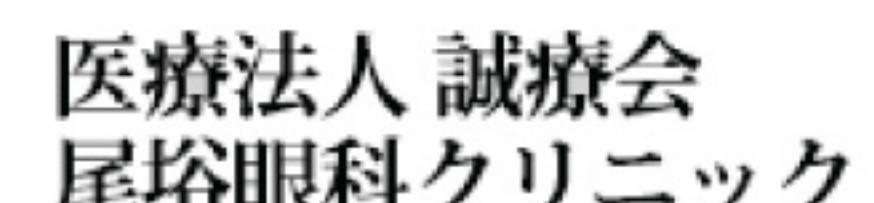
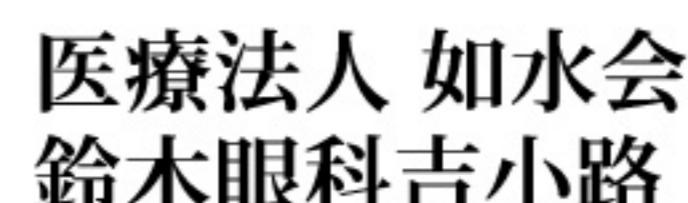
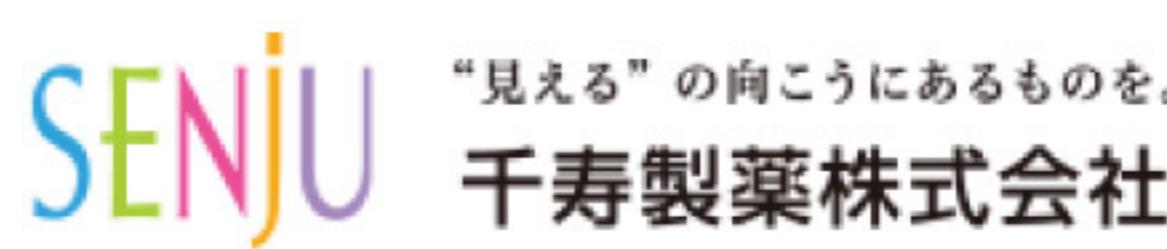
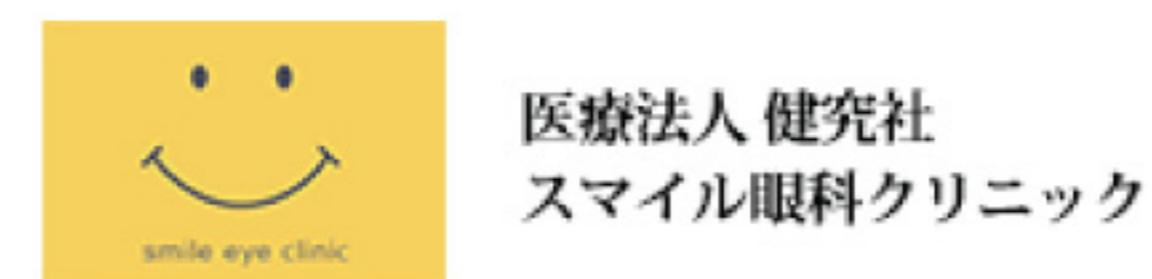
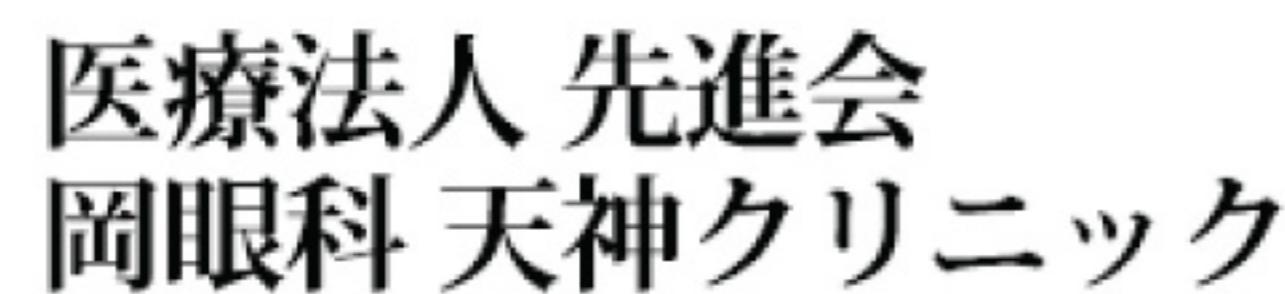
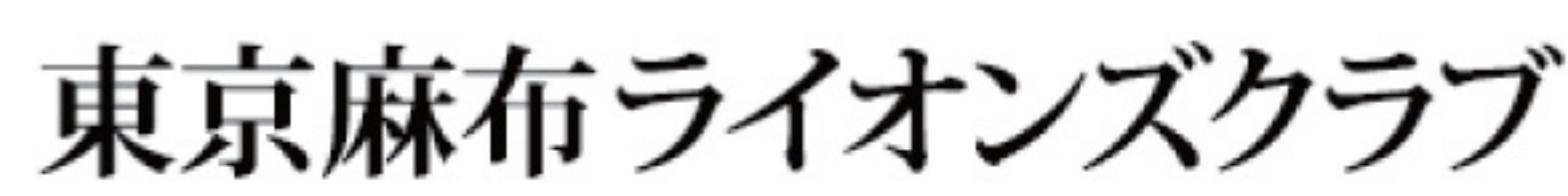
A 角膜移植を受けるには、医師による診断(角膜移植が必要な状態である事)が必要です。つまり、角膜移植により視機能の回復や疼痛の軽減などを望める場合に角膜移植の適応となります。角膜移植術には高度な医療技術が必要であり、実施できる病院は限られています。

Q コーディネーターは、
どのような仕事をしているのですか?

A コーディネーターの役割は、移植医療において提供者と移植者の架け橋となることです。提供に際しては、中立な立場でインフォームド・コンセントを行い、角膜の斡旋時は、公平・公正に待機患者を決定します。その他、アイバンク・移植医療の啓発や角膜加工を行う技術者としての業務も担っています。

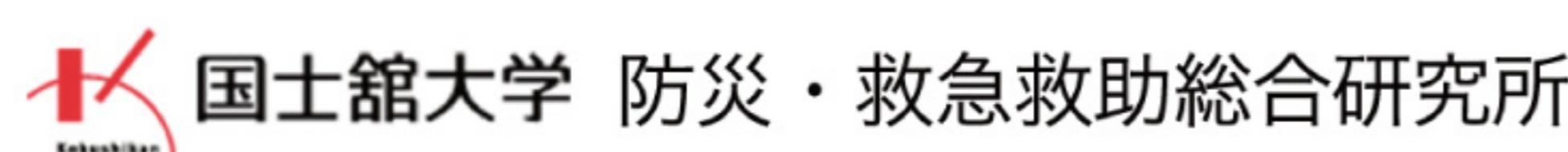
たくさんの企業・団体の皆様に暖かいご支援を頂き、心より感謝申し上げます。
サポーターページでは、皆様のご活躍をホームページのリンクやPR動画などでご紹介致しました。

協賛



後援 厚生労働省、日本角膜学会、(一社)日本再生医療学会、(一社)日本抗加齢医学会、(公社)東京都眼科医会、
東京麻布ライオンズクラブ、市川パインツリーライオンズクラブ、(福)日本点字図書館、東京視覚障害者ランニングクラブ、
(公財)日本テレビ小鳩文化事業団、(公社)日本臓器移植ネットワーク

協力



共催 (一財)視覚健康財団・アイバンク、(一財)北海道アイバンク、(公財)山形県アイバンク、(公財)静岡県アイバンク、
(公財)福井県アイバンク、(公財)兵庫アイバンク、(公財)熊本県移植医療推進財団、京都府立医大アイバンク、
東京大学医学部附属病院組織バンク、北里大学病院骨バンク、(一社)日本スキンバンクネットワーク

主催 東京歯科大学市川総合病院 角膜センター・アイバンク

次回の開催日 第24回「ドナーファミリーの集い®」※招待制

2021年10月9日(土) 14:00~16:00予定 会場: イイノホール&カンファレンスセンター

献眼を
するには

献眼のご意思があった場合は、下記のドナー・ホットラインまでご連絡ください。角膜センター・アイバンクから、医師を派遣させていただきます。献眼登録をしていない方、または他のアイバンクに献眼登録をしている方、近視、乱視、高齢の方でも献眼していただくことができます。ご提供いただきました角膜は、角膜センター・アイバンクの医学基準にのっとり、当アイバンクに登録されている患者さんに公平・公正にあっせんされます。

ドナー・ホットライン 047-324-1010 24時間受け付けております